

山元町津波避難訓練において避難状況を調査しました(2013/8/31)

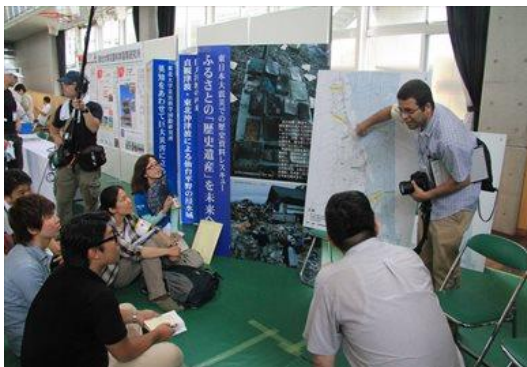
テーマ：防災訓練・津波避難訓練
場所：宮城県山元町

8月31日(土)、宮城県山元町において総合防災訓練・津波を想定した避難訓練が行われました(主催：山元町、共催：「カケアガレ!日本」企画委員会、協力：東北大学災害科学国際研究所、河北新報社)。東日本大震災の津波によって面積の約4割が浸水した山元町では、広い平野部が広がる東部の浜通り地区に現在およそ550世帯が生活しています。浜通り地区から避難するためには、自動車で町内を南北に走る国道6号周辺の高台や指定避難場所を目指さなければならず、これまでも避難の際には各地で渋滞や混雑が発生していました。同町では、震災後初めてとなる大規模な避難訓練を企画し、浜通り地区の各行政区や復興事業に携わる各事業所の協力も得て、多くの住民や工事関係者が車を使った避難訓練に取り組みました。

災害科学国際研究所は訓練の企画ならびに実施に協力し、当日は平川新所長、今村文彦副所長、奥村誠教授、小野裕一教授、遠田晋次教授、サッパシー・アナワット准教授、久利美和講師、金進英助教、池田菜穂助教、エリック・マス助教、保田真理助手、安倍祥助手、鈴木康夫共同研究員、木村裕行共同研究員が、そして東北大学リーディング大学院生(グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)も参加し、地区内の避難状況や主要経路の混雑状況などを調査しました。

避難場所の1つ山元町立山下中学校では体育館を会場に「防災イベント」が開催され、各機関によるパネル展示や、仙台管区气象台による特別警報についての講演も行われました。イベントにおいて平川新所長は、避難訓練を毎年継続したくさんの方に参加していただくこと、夜間に停電するような状況でも避難できるための心得の必要や、津波による犠牲者を1人も出さないことを目指し地域の実情に合わせた避難計画を検討していく必要などを話しました。会場では避難状況の調査に参加した教員やスタッフから、各地点の様子や、避難する車列の状況、自動車による津波避難の課題点など、現地報告を行いました。

災害科学国際研究所では、当日の避難状況を記録した映像や写真、主要な交差点で把握した避難車両の交通量など、さまざまな記録・データの分析を今後進め、山元町とも協働して今回の避難訓練について検証作業を進めて参ります。



参加教員による避難状況の現地報告



調査車両の車載カメラで記録した避難渋滞状況